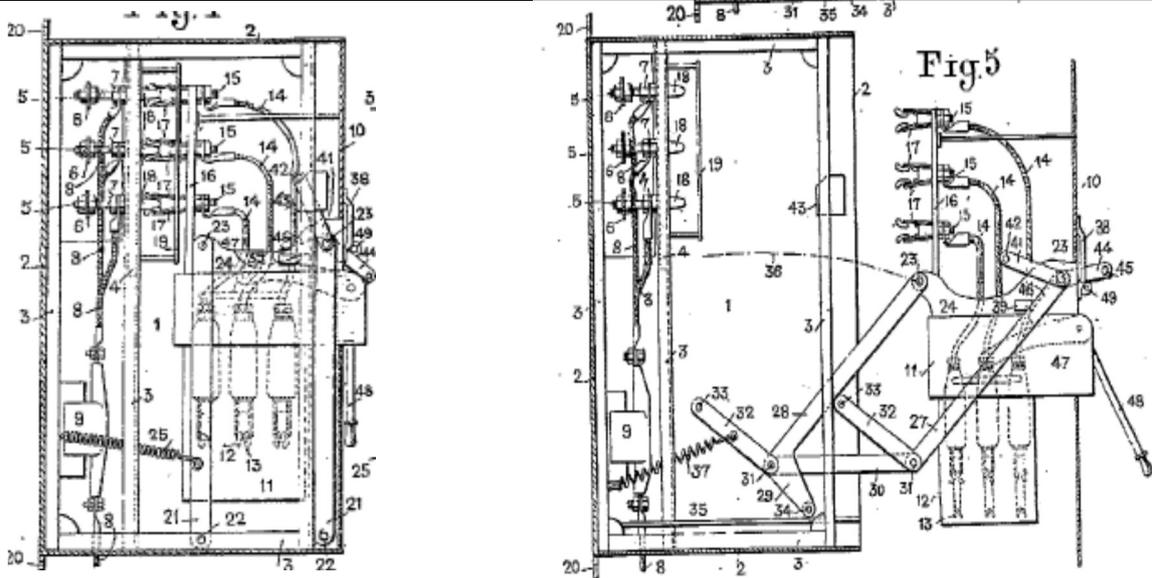


スイッチギヤ温故知新 - 特許明細書で見るスイッチギヤの歴史 - (No. 2)

タイトル	Peerfettamente apportés aux interfteurs électriques		
特許番号	FRA560298	公告年月日	2.oct.1923
出願・発明者	THOMSON-HOUSTON		

スイッチギヤの形態概要



引用元：FRA560298

特徴の解説

- ・ 気中絶縁金属閉鎖形スイッチギヤ（単母線方式）
- ・ 断路器形遮断器（リンク機構のレバー操作で遮断器を“接続”，“断路”する方式）
：保守作業の容易化
- ・ 母線と回線ケーブル（変成器含む）の区画無し（キュービクルタイプ）
- ・ 遮断器“断路”状態で、盤側固定端子部はバリヤ（13）で充電部保護：保守時の安全性

注：ここに記載した解説内容は、特許公報図面のスイッチギヤ形態から読み取った内容で記載しているものであり、特許請求内容と必ずしも一致するものではない。

独白

- ・ 1883年に米国で THOMSON-HOUSTON Electric Company が設立され、翌年 1884年に、THOMSON-HOUSTON International Company として国際的な販売会社として組織された。その後、1892年に EDISON GENERAL Electric Company と合併し GE に至る前身の会社である。EDISON GENERAL Electric Company と合併した翌 1893年に GE の姉妹会社として、フランスのパリに Compagnie Francaise THOMSON - HOUSTON を設立。この特許は、今から約 100年前にそこから出願されたもので、遮断器のメンテナンスの容易性、保守時の安全性などが配慮されている。
- ・ No.1 で紹介した英国 Reiroll 社の油絶縁メタルクラッドスイッチギヤと同時代のものであるが、“油絶縁と空気絶縁”，“遮断器固定型と引出形”とそれぞれに、設計の基本的考え方が全く異なるスイッチギヤである。英国とフランスの違いなのだろうか。現在の欧州や我が国でもガス絶縁スイッチギヤなど密閉形で固定形遮断器を搭載したものと、気中絶縁の引出形遮断器搭載スイッチギヤが並行して製造されているのだが、この戦いは 100年前から続いているのか・・・、当時の使い分けは・・・など、興味が尽きない。